

## 平成22年度彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館 指定管理業務における自己評価

当財団は、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の指定管理者として、平成21年度から引き続き3年間の指定を受けている。

平成22年度においては、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とその後の計画停電の影響により、一部公演の中止や埼玉会館の利用を一時的に休止する事態が生じたものの、一年を通じて、数多くの優れた芸術文化作品を提供したほか、地域の方々と連携した取り組みを行うことで、地域の核としての役割を果たすことに努めた。この結果、指定管理業務基本協定における評価指標を上回る実績をあげることができた。

また、平成22年度は、当財団が発信する高い芸術性を国内外に強く示した1年であった。蜷川幸雄芸術監督は、長年にわたる芸術文化の発展に貢献した功績により、平成22年5月に、米国の国立総合文化施設であるケネディ・センターから「芸術金賞」が授与され、さらに、11月には「文化勲章」を受章した。また、12月に上演した「さいたまネクスト・シアター」による「美しきものの伝説」は、平成23年2月に第18回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞した。

以下、平成22年度における彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館指定管理業務の自己評価について報告する。

### 1 文化振興に関する事業

#### (1) 事業の概要及び事業一覧：別紙4、別紙5参照

##### 全体総括

蜷川芸術監督のもと、芸術性の高い舞台芸術作品をより多くの方々に身近に親しみ楽しんでいただくため、それぞれの施設の特性を生かしたラインナップにより舞台芸術作品の鑑賞機会を提供した。

#### ・ 事業数及び公演数

	指定管理事業	文化芸術特別企画助成事業	計
事業数	78事業	2事業	80事業
公演数	280公演	30公演	310公演

#### ・ 入場者数：69,801人

## 演 劇

蜷川芸術監督演出の作品を軸に事業を展開した。「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、第23弾として喜劇「じゃじゃ馬馴らし」を上演した。

また、55歳以上の団員による「さいたまゴールド・シアター」と、若手俳優による「さいたまネクスト・シアター」もそれぞれ公演を行い、個人史を生かした新たな演劇の可能性への挑戦や若手の育成など、公共劇場ならではの取り組みを深めた。特に「さいたまネクスト・シアター」による公演「美しきものの伝説」は、読売演劇大賞優秀作品賞を受賞し、大きな成果を得た。

このほか、「彩の国ファミリーシアター」として、平成20年度に上演して好評を博した「音楽劇 ガラスの仮面」の続編を上演した。学校が長期休暇の時期に、親子で楽しめる上質の舞台作品を上演することで、若い世代が舞台の魅力に触れ、関心を持つきっかけをつくった。

## 舞 踊

海外からは、埼玉でしか見られないバットシェバ舞踊団「MAX マックス」、初来日のホフェッシュ・シェクター「ポリティカル・マザー」や、ローガス「3Abschied ドライアップシート（3つの別れ）」を招聘した。

一方、国内からは、継続的な取組として、独自の作風でダンスの裾野を広げるコンドルズの新作「ロングバケーション」を上演したほか、日本の次世代を担うダンサー、若手振付家2組による「d a n c e t o d a y 2010」を引き続き当劇場で制作・上演した。

また、バットシェバ舞踊団及び「ドライアップシート」公演に併せてカンパニーの振付家などによるワークショップを実施し、若いダンサー達が、世界的なダンスカンパニーの振付家等による指導に触れる機会を提供した。

## 音 楽

世界屈指のアーティストや日本を代表するソリストによるリサイタル、室内楽や古楽器アンサンブルなど多彩なジャンルの公演を提供した。

また、日本の若手ピアニストの中で注目を集めている小菅優を中心とした3年間のシリーズ「小菅 優の現在（いま）」については、若手実力派ソリストとのアンサンブルにより第2回目公演を開催したほか、若手の期待の星たちによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」を引き続き実

施し、若手の育成に資した。

一方、誰もが気軽に音楽に触れられる機会を広く提供するため、情報プラザにおいてポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサートを行なった。また、オルガンによる音楽の普及啓発を主目的として、当劇場が所有する楽器の弾き込みを兼ねた「みんなのオルガン講座」も継続して実施した。

さらに、若い世代に芸術体験の機会を提供する場として、小・中学校への出張コンサート「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」を、県内公立文化施設との共催及び財団単独主催事業と並行して実施した。

### その他

好評の「彩の国さいたま寄席」（年4回）を引き続き実施した。

また、NPOとの協働事業として「彩の国シネマスタジオ」を実施したほか、埼玉県が行う「青少年夢のかけはし事業」との連携事業として「劇場体験ツアー」を実施した。

さらに、当劇場の認知度を高め、舞台芸術への関心を広げていただくため、蜷川芸術監督と各界のアーティストとの公開トーク・セッション「NINAGAWA千の目」を引き続き実施した。

このほか、地域との連携を深めるため、県内の高校生を対象とした舞台技術の研修会を開催したほか、大学のインターンシップを積極的に受け入れた。

## (2) 収支比率（別紙2再掲）

評価指標 (a)	実績 (b)	実績－評価指標 (b)－(a)
50.0%	59.2%	9.2%

収支面で苦戦した部門はなく、加えて舞踊部門において大幅なコスト削減が図られたため全体の収支比率が引き上げられ、評価指標を上回る実績を挙げることができた。

### (3) チケット販売率 (別紙2再掲)

評価指標 (a)	実績 (b)	実績－評価指標 (b)－(a)
80.0%	81.8%	1.8%

前年度に引き続き広報誌の活用や地道な営業活動等により、評価指標を上回る実績を挙げる事ができた。

### (4) 公演満足度 (別紙2再掲)

評価指標 (a)	実績 (b)	実績－評価指標 (b)－(a)
90.0%	95.6%	5.6%

本指定期間（平成21年度～平成23年度）より新たに設けられた指標である。各館において特長を生かした多彩な事業を展開していった結果、大勢の方々から高い評価をいただくことができた。

## 2 施設利用に関する事業

### (1) 事業の概要

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の3館について、多様なニーズに対応するとともに、各施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設貸与を行った。

また、施設予約管理システムの更新に向けた準備作業や新たに開始するインターネット施設予約サービスの導入準備作業を3館共同で実施した。

#### 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえ、利用者サービスの充実に努めた。

施設利用については、利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、リピーターへのキャンセル情報の提供などに努めるとともに、近隣小学校児童などの劇場見学を積極的に受け入れた。

舞台芸術資料室については、公演に関係する書籍やビデオ等を集めた企画コーナーの設置や調査研究の相談等により、利用の促進を図った。

また、平成23年2月から開始された改修工事が円滑に行われるよう、県や施工業者等と緊密な連絡調整を行った。

総来場者数 302, 367人

#### 埼玉会館

平成23年3月11日に発生した東日本大震災と、その後の計画停電による影響により、会館の利用を一時的に休止する事態が生じたが、年間を通じて会館施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室等が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。また、利用者アンケートを引き続き実施し、利用者の要望に対応した。

また、大ホールのビデオプロジェクター装置設置工事により、映画等のDVD映像や講演会等におけるパソコン映像の投影が可能になった。

総来場者数 678, 287人

#### 熊谷会館

熊谷会館の施設を適正に管理するとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

屋外の施設案内サインを、より視認性の良いものに改修したほか、ホール階段塗装の塗り替えや全ての洋式トイレをウォシュレット化するなど、利用者のサービス向上を図った。

また、エントランス及び事務室照明の省エネルギー化など環境負荷の軽減や、PCB混入の変圧器改修、楽屋用監視カメラ及び駐車場用監視カメラを増設改修して、安心安全の充実に努めた。

このほか、会議室や給湯室等の備品について定期的に点検を行い、快適にご利用いただけるよう努めるとともに、利用者アンケートを随時実施し、利用者の要望に対応した。

なお、興行者にホール利用を促すダイレクトメールを発送したことで、利用問い合わせが増加したため、利用に繋げるよう案内の発送を継続して行っている。

総来場者数 115, 521人

**(2) 利用率** (別紙2再掲)

施設名	評価指標 (a)	実績 (b)	実績－評価指標 (b)－(a)
彩の国さいたま 芸術劇場	75.0%	91.2%	16.2%
埼玉会館	75.0%	81.5%	6.5%
熊谷会館	75.0%	76.9%	1.9%

彩の国さいたま芸術劇場については貸館業務において高い技術力に裏打ちされたサービスを提供し、また、埼玉会館及び熊谷会館においても積極的に利用促進を図った結果、各館とも大勢の方々にご来場いただいた。

**(3) 利用者満足度** (別紙2再掲)

施設名	評価指標 (a)	実績 (b)	実績－評価指標 (b)－(a)
彩の国さいたま 芸術劇場	80.0%	94.3%	14.3%
埼玉会館	80.0%	93.2%	13.2%
熊谷会館	80.0%	95.7%	15.7%

本指定期間（平成21年度～平成23年度）より新たに設けられた指標であるが、利用者ニーズに応えた高水準のサービスを提供することにより、評価指標を大きく上回る評価をいただくことができた。

### 3 営業宣伝に関する事業

#### (1) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催した。

a 「NINAGAWA×SHAKESPEARE 1974－2009」

『ヘンリー六世』の上演にあわせ、舞台写真、ポスター、プログラムなどを展示し、これまでの蜷川幸雄演出のシェイクスピア作品を展示した。

b 「はじめての人も、二度目のひとも 音楽劇ガラスの仮面」

平成20年度に上演した第一作をご覧になった方もそうでない方も、続編の本作を楽しんでいただけるよう、第一作目の舞台写真を中心に、これまでのストーリー、キャラクター紹介、人物相関図など、豊富なビジュアルとともに展示した。

c 「シェイクスピア・シリーズ展」

彩の国シェイクスピア・シリーズ第1弾「ロミオとジュリエット」(1998年)から第22弾「ヘンリー六世」(2010年)までの舞台写真をパネル展示した。

d 「維新派〈彼〉と旅をする20世紀三部作#3『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』犬島公演50日間の記録 写真展」

瀬戸内海に浮かぶ犬島で初演を迎えた本作について、島への上陸から舞台の設営、連日の稽古、そして本番までのすべてを“目撃”してきた写真家・井上嘉和氏の写真から犬島公演の様子を展示した。

e 「演劇ポスター・フライヤーから「時代の空気」を読む～1968年を中心に～」

『美しきものの伝説』が生まれた1968年当時の演劇ポスター、フライヤー及び『美しきものの伝説』の作者である宮本研作品のポスター・フライヤーを展示した。

#### (2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころや蜷川芸術監督の公開トーク・セッション(NINAGAWA千の目)の内容を掲載するなど、読みやすく、かつ充実した内容の情報誌を

目指し、編集を行った。

- a 発行回数、部数 6回 各 13,000 部発行
- b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、  
プレイガイド、県内文化施設など

### **(3) メンバーズ事業**

財団の活動を支援する個人の会員組織「メンバーズ」への加入促進に努めた。「メンバーズ」の会員には、財団情報誌を送付するとともに、財団主催事業のチケットについて優先販売と割引サービスを行うことにより、チケットの販売促進を図った。

会員数 5,739 人（平成 23 年 3 月末現在）

### **(4) サポーター会員制度の運営**

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」への加入促進に努めた。「じゃじゃ馬馴らし」上演時にはサポーター鑑賞会及び懇親会を実施した。

サポーター会員数 76 社（者）（平成 23 年 3 月末現在）